

フィジカルAIは構想から実装へ 広がり始めた収益機会

次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式

- 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご紹介します。

足元の投資環境

9月の世界株式市場は、中東情勢の緊迫化や原油価格の高止まり、インフレ懸念による債券利回りの上昇などを受け、軟調に推移しました。一方、テクノロジー関連株は堅調で、AIインフラ関連銘柄が上昇をけん引しました。半導体・半導体製造装置関連株が上昇した一方、ソフトウェア関連株は軟調となるなど、AI関連分野でも値動きに差が見られました。

AI関連では、技術が急速に進歩するなか、安全性や社会的な影響をめぐる議論が活発化しました。また、AIの活用は企業から一般消費者へと広がりつつあり、買い物や旅行の予約など、複数の作業を自律的に行うAIエージェントへの注目が高まりました。AIエージェントの普及に伴い、計算処理やデータ通信の需要拡大が見込まれ、半導体やネットワーク関連技術など、AIインフラの重要性が改めて注目されました。

図表1 原油価格と債券利回りの推移

(期間:2026/8/3~2026/10/21、日次)



※原油価格:WTI原油先物、1バレル当たり
※債券利回り:米国債10年利回り
※グレー色掛け部分は9月期間

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

当ファンドの運用状況

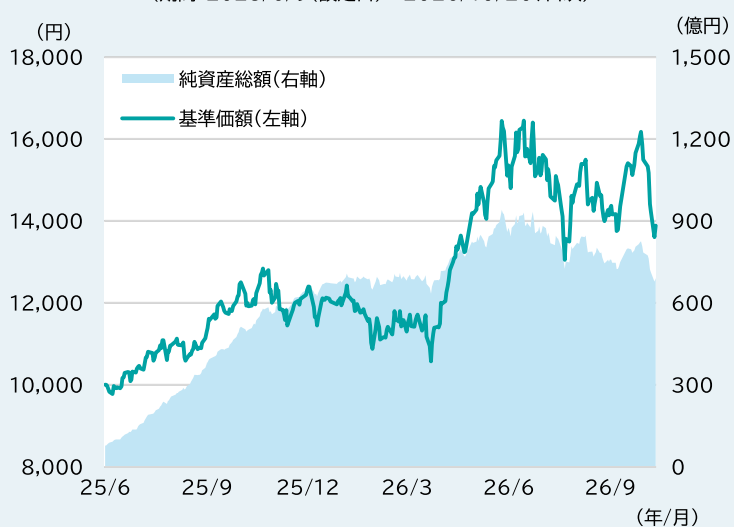
9月は、AIエージェントの普及に伴う計算処理需要やデータ通信需要の拡大期待を背景に、半導体やネットワーク関連銘柄がプラスに寄与しました。特に、AIエージェントが自律的に複数の作業を行うことで、CPUの処理量や機械同士の通信量が増加するとの見方が、関連企業の株価を支えました。

一方、医療画像診断関連銘柄や、一部の半導体、データセンター向け電力・冷却設備関連銘柄はマイナス要因となりました。半導体関連銘柄では、市場の高い期待が既に株価に織り込まれていたこと、データセンター関連銘柄では、設備の納入遅延や製品品質への懸念が株価の下落要因となりました。

当月は、AIエージェントの普及に伴うサイバーセキュリティ需要の拡大に着目し、関連企業を新たに組み入れました。AIエージェントによる社内データへのアクセスや業務実行が広がるなか、不正アクセスや情報漏えいへの対策の重要性が高まるとみて、新たなセキュリティ需要の恩恵が期待される企業への投資を開始しました。

図表2 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(期間:2025/6/9(設定日)~2026/10/20、日次)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後

NEXT GENERATION

フィジカルAIは構想から実装へ 広がり始めた収益機会

フィジカルAIは、AIがカメラやセンサーなどを通じて現実世界を認識・判断し、ロボットや自動車などを実際に動かす技術です。これまで構想・実験段階に留まっていたが、生成AIの進化や関連機器・センサーなどの要素技術の発展、各種コストの低下により、実装が進み始めています。フィジカルAIの実装が進むことで、次世代AIエコシステム全体の収益機会が広がると考えています。

■ フィジカルAIの実装によりバリューチェーンの裾野が拡大

フィジカルAIの実装拡大に伴い、そのバリューチェーンの裾野が広がっています。バリューチェーンには、フィジカルAIの開発基盤(AIの学習、仮想空間でのシミュレーション、ロボット用基盤モデル構築)、「頭脳」となるAIチップ、「目」となるセンサー類、「関節・筋肉」に相当するモーターや減速機、ロボット本体や車両、運用サービスなどが含まれます。

フィジカルAIの活用が進む分野としては、自動運転、物流・倉庫、自動車製造、医療などが挙げられます。

■ 商用化が進むロボタクシー

フィジカルAIの実装が特にわかりやすく進んでいるのが自動運転分野です。自動運転タクシー(ロボタクシー、構造は図表3を参照)は、カメラやLiDAR(ライダー。レーザー光を照射し、その反射光から対象物までの距離や形状などを計測する技術)などのセンサーで周囲を認識し、AIが道路状況や歩行者、ほかの車両の動きを理解・予測したうえで、進路や速度を判断し車両を制御します。認識・予測・判断・実行という複数のAI機能が現実世界で一体となって動く、フィジカルAIの代表例です。

現在、ロボタクシーの商用化は米国や中国を中心に進んでいます。米アルファベット傘下で自動運転開発を手がける米ウェイモは、4,000台超のロボタクシーを米国の約15都市で展開しています。こうした実装の広がりに伴い、車両だけでなく、AI半導体、センサー、通信、データ基盤、ソフトウェアなど幅広い分野で新たな需要が生まれています。

図表3 ロボタクシーの構造



(出所)BNPパリバ・アセットマネジメント

NEXT GENERATION

■ 物流施設でのAI搭載ロボットの導入が加速

世界的に物流現場で深刻な人手不足が進む中、フィジカルAIはその解決の切り札になると考えられます。たとえば、米アマゾンではAIを搭載した新型の自走型ロボットの物流施設への導入を拡大しています。従来は複数のロボットで行っていた荷物の仕分け作業を、新型ロボット1台で担う取り組みも進んでいます。また、このロボットは人との衝突を自律的に回避できるため、人と同じ空間での使用が可能です。このように、フィジカルAIは物流現場の効率化やコスト削減を通じて、収益に貢献しつつあると考えられます。

■ フィジカルAIの成長が設備投資やソフトウェア投資を連鎖的に拡大

フィジカルAIの成長に関連する設備投資やソフトウェア投資は、一度で終わるものではなく、次の投資を呼ぶ「連鎖」の形で広がっていきます。フィジカルAIの開発から製造・量産、現場への導入、運用に至る各段階で、投資の拡大が期待されます。

「開発」では、フィジカルAIの学習用データセンターの構築、シミュレーション用ソフトウェアの開発、ロボット開発企業への出資などが挙げられます。「製造・量産」では、ロボット製造に向けた工場建設や、部品メーカーによる生産能力の拡大などが想定されます。「現場への導入」では、工場や倉庫へのロボット導入に伴う設備やレイアウトの改修などが必要になります。さらに「運用」では、ロボットの保守やデータ管理への支出、専用ソフトウェアの継続課金などが発生します。

フィジカルAIの導入拡大に伴い、こうした各段階で新たな投資需要が生まれ、投資の連鎖が広がっていくと考えられます。

■ 生成AIやエージェントAIのさらなる進化も不可欠

しかし、フィジカルAIがより複雑な作業を担うためには、生成AIやエージェントAIのさらなる進化が必要です。生成AIの進化により、作業の手順や段取りを組み立て、細かな調整を行う能力が向上します。また、エージェントAIが進化することで、人が細かく指示しなくても、自ら手順を考え、複数の作業を連続して実行できるようになります。このように、フィジカルAIの進化に伴い、その「頭脳」を支える生成AIやエージェントAIへの需要も高まると考えられます。

だからこそ、フィジカルAIの成長を捉えるには、ロボットそのものだけでなく、それを支える次世代AI全体を見渡す視点が重要です。

■ フィジカルAIで重要な安全性の観点、そして広がる次世代AIの投資機会

最先端AIをめぐるのは、暴走などのリスクや、より強力な安全対策・監督の必要性について議論が活発化していますが、運用チームでは、こうした動きをAI業界にとって健全かつ前向きな一歩と捉えています。AIモデルの能力が高まるにつれ、安全性や信頼性を確保することは、AIのより広範かつ持続可能な普及を後押しすると考えられます。これは、特にAIを活用する企業にとって重要です。企業がAIを日常業務に導入する際には、セキュリティ、ガバナンス、信頼性が重要な考慮事項となるためです。

こうした安全対策の強化は、さまざまな企業におけるフィジカルAIの活用拡大にもつながると考えています。そして、フィジカルAIの恩恵を受ける企業を幅広く捉える「次世代AI」の投資機会の拡大にもつながるとみています。

NEXT GENERATION

今後の運用方針 - 拡大するAI市場を次世代AI株式戦略で捉える

「次世代AI株式戦略」は、AIの進化を一つの領域に限定せず、生成AI、エージェントAI、フィジカルAIを含む次世代AI全体から成長企業を発掘することを目指しています。

フィジカルAIの成長が本格化するにつれ、その恩恵を受ける企業の裾野も広がっていきます。だからこそ、フィジカルAIを「点」ではなく、次世代AIという「面」で捉えることで、その成長機会をより広く、長期的に取り込むことを目指します。フィジカルAIという新たな市場が加わり、AIの活躍領域がさらに広がるなか、次世代AI市場全体を見据えて投資する重要性は一段と高まっていると考えています。

運用チームでは、次世代AIを社会や産業の在り方を大きく変える「汎用技術」と位置づけ、長期的な成長機会を見込んでいます。当ファンドは、市場環境に応じて次世代AIインフラと次世代AIイノベーターの双方に柔軟に投資することで、AI市場の成長を取り込んでいきます。次世代AI市場の発展にはインフラの進化が不可欠ですが、その価値を最終的に収益へと転換するのはイノベーター企業です。両分野への投資を通じて、次世代AIの幅広い成長機会の獲得を目指します。

銘柄紹介

■ テラダイン(米国、情報技術)

同社は、半導体などの高精度なテスト装置を手がける大手企業で、協働ロボットや自律走行搬送ロボットなどのロボティクス事業も展開しています。

フィジカルAIの拡大に伴い、ロボットや車両に搭載されるAIチップが増えることで、その検査需要の拡大が期待されます。また、同社が手がける協働ロボットや自律走行搬送ロボットの需要拡大も見込まれます。なお、同社のロボティクス部門は米エヌビディアと協業し、AIを活用したロボットの開発を進めています。

■ 優必選科技(UBTECH)(中国、資本財・サービス)

同社は、中国を代表する人型ロボットメーカーの一つで、教育用や物流用など幅広いロボットを手がけており、現在は工場などで使用する産業用人型ロボットの展開を進めています。

自動車製造や物流などの分野で人型ロボットの導入が進んでいるほか、海外での展開も拡大しています。2025年には米半導体大手テキサス・インスツルメンツと提携し、半導体製造分野への人型ロボットの導入を進めました。さらに2026年には、欧州のエアバスが同社の産業用人型ロボット「Walker S2」を購入し、航空機製造現場での活用に向けた取り組みを開始しています。

図表4 テラダインの株価推移

(期間: 2025/12/31 ~ 2026/10/20、日次)



(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

図表5 優必選科技(UBTECH)の株価推移

(期間: 2025/12/31 ~ 2026/10/20、日次)



(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧 2026年10月23日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
岡三ビジネス&テクノロジー証券株式会社	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
おきぎん証券株式会社	沖縄総合事務局長(金商)第1号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社 お問い合わせ先	電話番号 03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)	ホームページ https://www.sbiokasan-am.co.jp
-----------------	--------------------------------------	---

次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項

投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：**購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)**
 - 換金手数料：**ありません。**
 - 信託財産留保額：**ありません。**
 - 運用管理費用(信託報酬)：**純資産総額×年率1.2925%(税抜1.175%)**
 - 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担：**純資産総額×年率1.826%(税抜1.66%)程度**
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
 - その他費用・手数料：監査費用[純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)]
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商 号 等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。